関岡小学校ほけんだより

いのち

☆いきいき　のびのび　ちからいっぱい☆
平成２５年１０月９日
文責　保健安全ボランティア委員会
　　穴沢　友美

10月10日は目の愛護デーです

今回の『いのち』は保健安全ボランティア委員会の児童が作成しました!!

９月に行われた委員会で,「１０月１０日の目の愛護デーにあわせてどんな活動をしますか？」という委員長からの問いかけに,「ほけんだよりをつくりたーい」と答えてくれた委員会のメンバー。自分たちの活動の一環としてほけんだよりの発行を考えてくれる子どもたち。とても頼もしく,嬉しく感じました。子どもたちが一所懸命調べ,作成したほけんだよりです。是非隅々までご覧ください。

赤ちゃんの目のつくり(佐藤颯斗)

生まれたばかりの赤ちゃんの眼球の構造は,大きさが少し小さいという以外,ほぼ成人と同じ程度に完成しています。しかし視力はまだ,非常にわずかです。それは,網膜から脳へ信号を伝えて映像にするしくみが育っていないからです。そのしくみは,実際に物を見て網膜から脳の神経に刺激が加わることで成長します。視力の発育するスピードは生後間もない時期ほど急速です。具体的には,生まれたばかりのときの視力は,０.０１程度で,１年後には０.１前後に育ちます。その後はゆるやかに発育し,４～５歳で１.０となり,ほぼ完成となります。

麦粒腫(ばくりゅうしゅ)<ものもらい>(金澤雄羽)

主に,まぶたにある脂や汗を出す腺にブドウ球菌という細菌感染によって起こる急性の化膿性炎症のことです。まぶたの一部が赤く腫れ,まばたきをしたり,何かがふれると痛みがある場合があります。原因菌の多くは黄色ブドウ球菌です。黄色ブドウ球菌は,化膿した傷に存在することが多いのですが,健康な人ののどや鼻,皮膚,手指,毛髪,腸管などにも分布しています。感染力が弱く,感染する危険は大きくありませんが,目にケガをしたときや病気などで身体の抵抗力が落ちたときに目をこすったりすると,ものもらいができることがあります。

目の守り方(本多 葵)

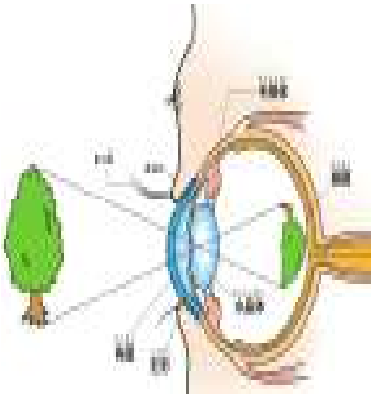
病気のほかにも,子どもの目が見えなくなる一番の原因はけがです。目を危険から守るために気をつけてほしいことをまとめました。

１　目にゴミや砂が入ったら,こすらないでパチパチとまばたきをして,涙で流しましょう。それでもゴロゴロするときには,お医者さんで診てもらいましょう。
２　目にボールが当ったり,ひじがぶつかったりしたとき,物がかすんだり,二重に見えたりするなどの症状がない場合には,腫れがひくまで冷やしましょう。
３　目に何かが刺さったときには,自分で抜こうとしないで,そのままお医者さんへ行きましょう。
４　洗剤などの薬品が目に入った場合は,流水で洗い,念のためお医者さんで診てうことをおすすめします。

目と目の周りのつくり(藤井俊輔)

目には,眼球とその周りにまぶた,まつげ,まゆ毛があります。上下のまぶたは,涙で絶えず眼球をうるおし,角膜をきれいにする働きをしています。両まぶたにはまつげがあり,外からゴミが入らないようにし,何かがまつげに触れると,瞬間的にまぶたを閉じて目を守ります。上まぶたの上にはまゆ毛があり,汗やゴミが目に入るのを防いでいます。

目の中のつくり(山中隆史)



眼球は,直径約２４ｍｍの球体で,角膜,虹彩,水晶体,ガラス体,網膜などからできています。網膜上には,視神経があり,網膜に写った画像は,１ヵ所に集まって脳へ送られています。角膜は保護フィルター,虹彩はしぼり,水晶体はレンズ,網膜はフィルムにとそれぞれをカメラの部品にたとえて表現されることもあります。

＜参考文献＞
・赤ちゃんの目のつくり：(株)創新社「目と健康シリーズNo.１６」
・麦粒腫:参天製薬ＨＰ
・目の守り方:目のふしぎ(ライオンズクラブ国際協会ＨＰ)
・目と目の周りのつくり,目の中のつくり:人のからだ(学研の図鑑)